

## 2004年度(平成16年度)(第109回)総会・学術評議員会記録

日 時：2004年8月25日(水)12:00～13:30

場 所：国立京都国際会館 Room A

開会の辞 高田庶務担当理事より本総会は出席者103名、委任状1087通、合計1190名で会員総数2188名の過半数を上廻り、定款31条に定められた定足数を超え成立、学術評議員会は441名のうち、既に委任状231通が届いており、出席者をあわせると、定款施行細則9条に定められた定足数89名(学術評議員数の1/5)を超え、成立している旨の報告がなされ、開会が宣せられた。

議長選出 高田庶務担当理事より議長として井出千束会頭を推薦したい旨、提案があり、承認された。続いて議長より副議長に塩田浩平教授、金子武嗣教授を、書記に出澤真理助教授を推薦したい旨、提案があり、承認された。

### ・議事録署名人の選任

高田庶務担当理事より議事録署名人として川上速人杏林大学教授、相磯貞和慶応大学教授を推薦したい旨、提案があり承認された。

### ・理事長報告

同時開催されている第16回国際解剖学会議の井出組織委員会委員長をはじめとする組織委員会の方々の努力に対する謝辞に続き、基礎科学の重要性を述べられた天皇陛下のおことばに触れながら解剖学の分野で日本が国際的に果たすべき役割の重要性を強調した。次に学会運営について学会事務センターの破産という事故があったが、解剖学会には損失はほとんどなく健全に運営されており、解剖学を国際的にも今後益々発展させてゆかねばならないと考えているとの報告がおこなわれた。

### ・報告事項

#### 1. 会員報告

2003年12月31日現在の会員状況として、正会員2,270名、名誉会員150名、永年会員64名、賛助会員43名、団体会員53名、海外会員19名である旨、報告がなされた。

#### 2. 物故会員

11名の物故会員の氏名が朗読され、続いて出席者全員による黙祷が捧げられた。

#### 3. 教授就任による新学術評議員紹介

教授就任による新学術評議員4名の紹介が資料に基づきおこなわれた。

・ 審議事項

1 . 新永年会員の件

理事会より推薦の 5 名の候補者につき資料をもとに審議がおこなわれ、承認された。

2 . 申請による学術評議員の件

理事会より提案の 9 名の候補者について資料をもとに審議がおこなわれ、承認とされた。

3 . 平成 15 年度（2003 年度）事業及び業務監査報告の件

学術集会開催状況 会議開催状況 内外学術団体との協力ならびに連絡  
以上の 3 件につき資料をもとに説明がおこなわれ、承認された。

委員会報告

- 1 ) 教育委員会報告（委員長 片岡勝子 広島大学教授）
  - 2 ) 解剖組織技術士資格審査委員会報告（委員長 大野伸一 山梨大学教授）
  - 3 ) 解剖体委員会報告（委員長 相磯貞和 慶応大学教授）
  - 4 ) 解剖学用語委員会報告（委員長 坂井建雄 順天堂大学教授）
  - 5 ) 海外交流委員会報告（委員長 明坂年隆 朝日大学教授）
  - 6 ) 情報技術委員会報告（委員長 辰巳治之 札幌医大教授）
  - 7 ) 学術委員会報告（委員長 藤本豊土 名古屋大学教授）
  - 8 ) コメディカル教育委員会報告（委員長 大谷 修 富山医科薬科大学教授）
- 以上 8 委員会の平成 15 年度委員会活動について、資料をもとに報告がおこなわれ、承認された。

学会誌刊行状況：資料をもとに説明がおこなわれ、承認された。

研究の奨励および業績の奨励

平成 15 年度（2003 年度）奨励賞受賞者（2 名）および技術士功労賞受賞者（1 級技術士 1 名、2 級技術士 2 名）について資料をもとに報告がおこなわれ、承認された。

技術士認定

4 名の 1 級技術士合格者（解剖 3、組織 1）、1 名の 2 級技術士合格者（解剖、組織、特殊組織）および現在までの技術士累計について報告がおこなわれ、承認された。

4 . 平成 15 年度（2003 年度）決算および会計監査報告の件

平成 15 年度決算について資料をもとに説明がおこなわれた。平成 15 年度は約 100 万円の赤字決算となったが、その原因とこれに対する具体的対策について説明がなされ、審議の結果、承認された。またこの決算および事業報告、財産目録等についての監査結果が、内山安男監事から報告され、公認会計士佐々木誠一氏の監査報告書とともに承認された。

5 . 平成 16 年度予算および事業計画の件

標記につき、資料をもとに説明がおこなわれ、審議の結果承認された。

6. 平成 17 年度予算執行の件

平成 17 年度予算執行に関し、総会開催までの 1~3 月分の収支については理事会に一任することが承認された。

7. 第 111・112 回総会・全国学術集會会頭承認の件

第 111 回総会・全国学術集會は北里大学医学部山科正平教授が、第 112 回総会・全国学術集會は大阪大学遠山正彌教授がそれぞれあたる旨、理事会よりの推薦があり、審議の結果承認された。

8. 次回総会・全国学術集會会頭挨拶

次回総会・全国学術集會会頭の大谷修教授が所用により欠席のため、副会頭の井関尚一教授より挨拶がおこなわれた。

9. その他

学会事務センターの破産に至る経緯、現状と今後の展望について

標記につき説明がなされ了承された。解剖学会の学会事務センター預り金は事務センターの預り金流用が公になった時点で約 400 万円あったが、いち早く 300 万円を学会名義の預金に移したこと、その後学会誌の発送などで 100 万円を超える支出があったことから、損失はほとんどないとみられるが、詳細は調査中であること。また今後の学会事務センターの業務の「受け皿」会社については業務の停滞を防ぐため常務理事会、理事会に一任されたい旨の提案があり了承された。

閉会の辞 井出会頭より閉会の辞が述べられ、2004 年度（第 109 回）総会・学術評議員会が終了した。